

局甲七三

大正二年十月一日 内閣書記官長 内閣書記官

内閣總理大臣 依

法制局長官

外務大臣

大藏大臣

海軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

陸軍大臣

司法大臣

農商大臣

高等官官等俸給令及判任官俸給令
中死亡賜金ニ關スル規定改正ノ件
死亡賜金ノ給與ヲ受クヘキ遺族ノ範
圍ニ關シ明治二十六年三月ノ閣議決

法制局

定ヲ以テ「死亡賜金ノ給與ヲ受クハキ
者ハ官吏遺族扶助法第十七條ノ遺族
即同一戸籍内ニアル親族ヲ指シタル
義」ナリト爲シ内閣總理大臣ヨリ各省
大臣ニ通牒セラレタル以來成年ノ子
ニ對シテハ從前ノ如ク死亡賜金ヲ支
給スルヲ例トセリ然ルニ本年三月印
刷局長ヨリ内閣ニ伺出アリタルヲ以
テ法制局ノ審議ヲ經テ成年ノ子ニハ
支給スヘキモノニアラサル旨内閣書

記官ヨリ印刷局長ニ回答シ同時ニ各
省祕書官ニ通牒セリ

抑右明治二十六年ノ閣議決定ニ於テ
ハ特ニ「官吏遺族扶助法第十七條ノ遺
族」ト稱スト雖第十七條ノ一時扶助金
ヲ受クルコトヲ得ル遺族ト同法第四
條乃至第十條ニ依リ扶助料ヲ受クル
コトヲ得ル遺族トハ其ノ範圍ヲ異ニ
スルモノナリト解スルコトヲ得ス何
トナレハ官吏在官十五年未満ニシテ

死亡シタル場合ニ於テ一時扶助金ヲ受クルコトヲ得ル遺族ト在官十五年以上ニシテ死亡シタル場合ニ扶助料ヲ受クルコトヲ得ル遺族トハ其ノ範圍同シカラスト為スハ法ノ明文ヨリスルモ立法ノ趣旨ヨリスルモ認ムヘカラサル解釋ナレハナリ而シテ高等官官等俸給令及判任官俸給令ニ於テ死亡賜金ヲ受クルコトヲ得ル遺族ハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ルト

規定シ成年ノ子ハ遺族扶助法ニ於テ之ヲ孤兒ト稱セス從テ遺族ト爲ササルカ故ニ死亡賜金ヲ受クヘキ者ニ非サルハ明瞭ナリ然リト雖死亡賜金ノ制度ハ死亡者葬祭料トシテ之ヲ給與スルノ趣旨ヲ以テ定メラレタルモノナルカ故ニ之カ支給ヲ受クヘキ者ヲ限定スルコト扶助料支給ノ場合ノ如クスルハ其ノ範圍狹キニ失スルノ嫌アリ是ヲ以テ從

前取扱ヒ來レル實例ニ徴シ且帛祭料
ニ關スル諸般ノ規程ニ照シ之ヲ廣ク
スルヲ相當ト認ム仍テ高等官官等俸
給令及判任官俸給令中改正ノ件起案
上申ス別紙ノ通閣議決定セラレ可然
ト認ム

勅令案
別紙ノ通

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正二年十一月十二日

内閣總理大臣

勅令第三百一號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス
第三十一條 高等文官死亡シタルト

法制局

キハ在職最終年俸三分ノ一ノ額ニ
相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給
ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、
孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸
籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族
ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依
リ同順位内ニ在リテハ家督相續人
ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ

先ツ

終身官ニ付テハ其ノ在職中死亡シ
タル場合ニ限リ前三項ノ規定ヲ適
用ス

附則

本令ハ大正二年十二月一日ヨリ之ヲ
施行ス

朕判任官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正二年十一月十二日

内閣總理大臣

勅令第三百二號

判任官俸給令中左ノ通改正ス

第十三條 判任官死亡シタルトキハ

法
制
局

在職最終月俸三月分ノ額ニ相當ス
ル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス
前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、
孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸
籍内ニ在ル者ヲ謂フ
第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族
ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依
リ同順位内ニ在リテハ家督相續人
ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ
先ツ

附 則

本令ハ大正二年十二月一日ヨリ之ヲ
施行ス

参照

高等官官等俸給令

明治四十三年三月
勅令第百三十四號

第三十一條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終

年俸三分ノ一ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ
依ル

終身官ハ其ノ在職中死亡シタル者ニ限り前二項ノ
規定ヲ適用ス

判任官俸給令

明治四十三年三月
勅令第百三十五號

第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸

三月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ

依ル

官吏死亡賜金之義從來ハ別紙閣議ノ趣モ有之候ニ
ヨリ遺族ナキ場合ハ親戚故舊等ニ交付シ來リ候處
客年十月發布ノ高等官々等俸給令第十三條但書
及今年今月改正ノ判任官俸給令第五條但書ニ「遺族
トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ」
ト規定相成候ニ付テハ從來ヨリ意義狹隘ニ限ラレ
候義ト被存候就テハ右遺族トハ官吏遺族扶助
法第四條乃至第十條ノ寡婦孤兒父母祖父母ヲ指シ

依ル

タル義ニ可有之ト當省ニ於テハ解釋致候得共官
吏遺族扶助法中別ニ其定義ヲ與ヘタル明條無
之ニヨリ各廳中遺族ヲ解スルノ範圍ニ廣狹ナキヲ
保セズ隨テ甲乙廳給否ノ別ヲ生シ候テハ不都合ニ
付此際右御一定之上其趣各省へ御通達相成度此
段閣議ヲ要ス

明治三十六年一月三十日

大藏大臣渡邊國武

内閣總理大臣臨時代理

内務大臣伯爵井上馨殿

十九年一月三十日
依ル

死亡賜金ノ件閣議指令

請議ノ趣恩給令第三十條ハ既ニ俸給令發布ニ依リ
消滅ニ属シタルヲ以テ旧官非職者死亡シタルトキハ
俸給令ニ據ルヘキハ當然ナリ且俸給令ノ死亡賜金ハ
該死者ノ爲メ恩賜ニ出ルモノナレハ若遺族ナキ場
合ニ於テハ其親戚等ノ葬祭者ニ交付スルモ固ヨリ妨
ナキ儀ニ付勅令又ハ閣令訓令等ノ發布ヲ要セザル
儀ト心得ハシ

明治二十年一月十日

別紙大藏大臣請議明治三十五年十月勅令第九十六號高等官官等俸給令第十三條及同年同月勅令第九十七號ヲ以テ改正セラレタル則仕官俸給令第五條中「遺族」ノ意義解釋ニ関スル件ヲ安ホスルニ右遺族トハ該但書ニ明記セル如ク官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ノ謂ナリ而シテ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ハ同法第十七條ノ遺族ヲ指シタルモノト信ス而シテ該十七條ノ遺族トハ實際ノ取扱上死セ者ト稱シ戸籍内ニ在ル親族

ヲ包含スルモノト解釋シ來ルヲ以テ左案ノ如ク
閣議決定相成可然ト認ム

各省大臣、通牒案 宮内大臣
ヲ除ク

高等官官等俸給令第十三條及判任官俸給令第
五條ニ依リ死亡賜金ノ給與ヲ受クヘキ者ハ官吏
遺族扶助法第十七條ノ遺族即同一戸籍内ニル
親族ヲ指シタル義ト閣議決定候條此段及御
通牒候也

明治三十二年三月十五日

内閣總理大臣

各省大臣宛

司法大臣、文部大臣ニ付書記官長ヨリ
司法官ハ宛ル

外ニ樞會、行、貴、衆、實、法ハ書記官長ヨリ通牒ス

・軍人恩給法

明治二十三年六月
法律第二十號

第十四條 給助金ハ下士以上現役中死没シ
若ハハ現役四年以上十二年未満ニシテ現役
ヲ離レ退職恩給免除恩給ヲ受ケサル
者ニ之ヲ給ス其額ハ第四表ニ依ル(下略)

巡查看守療治料、給助料及葬料給與令

明治三十四年七月
勅令第百四十九號

第三條 巡査又は看守在職中死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ弔祭料ヲ給ス但シ同順位間ニ在リテハ其ノ親等ノ最も近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在リテハ男ハ女ニ先チ同性間ニ在リテハ長ハ幼ニ先テ

一 配偶者
二 直系尊屬
三 直系卑屬
四 兄弟姉妹

前項親族ニシテ公債額若ハ停止中ニ係リ又ハ行方不明ナルトキハ弔祭料ヲ給スル限ニ在ラス但シ次位者アルトキハ之ヲ轉給ス

弔祭料ハ死亡當時ニ於ケル月俸一箇月分トシ勤續一年以上九年至ル迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ニ於ケル月俸額三分二ヲ増加ス但シ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケタルヲ證明シコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更に死亡當時ニ於ケル月俸六箇月分ヲ増加ス

勤續年數ノ計算ニ關シテハ巡査看守退職料及遺族扶助料法ノ例ニ依ル

第四條 前條ニ依リ弔祭料ヲ受ケヘキ者ヲキトキハ死亡者ノ爲葬祭ヲ行フヘキ者ニ前條ニ定ムル金額ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトアルヘシ

勅令第八號（宣稱二月十八日）

明治二十七年勅令第百八十四號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治二十七年勅令第百八十四號ハ戰時ニ際シ陸海軍職員氣樂榮組職人官用船船ノ船長等ニシテ該等ヲ受ケ該船ニ乗リ又ハ該船ニ乗ルトキ手當金給與ノ件ナリ

朕軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル者ニ一時賜金ヲ給與スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正二年二月二十二日

勅令第九號（宣稱二月二十四日）

第一條 軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル者自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ演習中死亡シ又ハ傷病ヲ受ケ不具癘疾ト爲リタルトキハ本令ニ依リ別表ノ一時賜金ヲ給ス該

内閣總理大臣 伯爵山本權兵衛
海軍大臣 男爵齋藤 實
陸軍大臣 男爵木越安綱

大正二年二月九號

傷疾ニ因リ三年以内ニ死亡シタル者不具廢疾ノ爲一時賜金ヲ受ケサルトキ亦同シ
第二條 本人死亡ノ後ニ於テ給スヘキ一時賜金ハ之ヲ其ノ遺族ニ給ス
前項遺族ト稱スルハ寡婦子父母祖父母兄弟及姉妹ニシテ本人死亡當時ヨリ引續キ同一戸籍
内ニ在ル者ヲ謂フ但シ本人死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡ノ當時其ノ家ニ在ル者ト看做
ス

第三條 一時賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前條第二項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順序内ニ在リテハ
男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先ツ但シ死亡者ノ家督相續人ハ同順序内ニ在リテハ最先トス

第四條 第二條ノ遺族ナキ場合ニ於テハ本人死亡ノ當時實家ニ在ル實父母死亡者ノ家督相續
人、本人死亡當時ニ於ケル戸主ノ順位ニ依リ別表金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

第五條 一時賜金ハ第一條ノ規定ニ依リ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ二年以内ニ請求セサ
ルトキハ之ヲ受クルノ資格ヲ失フ

第六條 不具廢疾ノ爲受クヘキ一時賜金ハ軍人又ハ文官ニ非サル者ニ限リ之ヲ給ス
第七條 本令ニ依リ一時賜金ヲ受ケタル事由ニ對シテハ朝鮮臺灣滿洲樺太並在外陸海軍雇員傭人
死傷手當金給與規則各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規又ハ官役職工人失扶助令ニ依ル手當
金又ハ扶助金ハ之ヲ給セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

死亡者

身分	別	金額	身分	別	金額
親	任官	三、〇〇〇	曹長	海軍一等下士	四、五〇
高等官一等		二、七五〇	軍醫	海軍二等下士	三、九〇
高等官二等		二、五〇〇	判任文官	海軍三等下士	三、五〇
高等官三等		二、〇〇〇	判任文官	海軍四等下士	三、一〇
高等官四等		一、八〇〇	海軍一等卒		二、八〇
高等官五等		一、五〇〇	陸軍一等卒		二、六〇
高等官六等		一、二〇〇	陸軍二等卒		二、四〇
高等官七等		一、〇〇〇	陸軍三等卒		二、二〇
高等官八等		七〇〇	陸軍四等卒		二、〇〇
准士官、見習士官、判任文官特別優等、二級修		五、六〇	海軍一等兵		一、五〇
文官特別優等、二級修			海軍二等兵		
日給三十日、七十五圓以上			海軍三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍二十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍三十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍四十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍五十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍六十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍七十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍八十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十一等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十二等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十三等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十四等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十五等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十六等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十七等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十八等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍九十九等兵		
日給三十日、十二圓未滿			海軍一百等兵		

不具廢疾者

身分	別	金額	身分	別	金額
終身自用ヲ辨スル		七、〇〇	終身業務ヲ管ム		五、八〇
コト能ハサル者			其ノ他ノ者		四、一〇

勅令第十一號（官報二月二十四日）

第一條 潜水艇ニ在リテ勤務スル者艦ノ沈没ニ因リ又ハ危險ヲ顧ミルコト能ハスレテ勤務ニ從事シタルニ因リ死亡シ又ハ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リタルトキハ本令ニ依リ別表ノ一時賜金ヲ給ス該傷病又ハ疾病ニ因リ三年以内ニ死亡シタル者不具癈疾ノ爲一時賜金ヲ受ケサルトキ亦同シ
前項ノ規定ハ自己ノ重大ナル過失ニ因リ死亡シ又ハ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ適用セス

第二條 大正二年勅令第九號第二條乃至第七條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

死亡者			死亡者		
身分	金額	身分	金額	身分	金額
親任官	三、〇〇〇	親任官	四、五〇〇	親任官	四、五〇〇
高等官一等	二、七五〇	高等官一等	三、九〇〇	高等官一等	三、九〇〇
高等官二等	二、五〇〇	高等官二等	三、五〇〇	高等官二等	三、五〇〇
高等官三等	二、〇〇〇	高等官三等	三、〇〇〇	高等官三等	三、〇〇〇
高等官四等	一、八〇〇	高等官四等	二、八〇〇	高等官四等	二、八〇〇
高等官五等	一、五〇〇	高等官五等	二、五〇〇	高等官五等	二、五〇〇

不具癈疾者

身分	金額	身分	金額	身分	金額
高等官六等	一、二〇〇	高等官六等	二、八〇〇	高等官六等	二、八〇〇
高等官七等	一、〇〇〇	高等官七等	二、六〇〇	高等官七等	二、六〇〇
高等官八等、少尉候補生	七〇〇	高等官八等、少尉候補生	二、四〇〇	高等官八等、少尉候補生	二、四〇〇
准任文官特別俸、一、二官	五六〇	准任文官特別俸、一、二官	二、二〇〇	准任文官特別俸、一、二官	二、二〇〇
終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	七〇〇	終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	一、五〇〇	終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	一、五〇〇
終身業務ヲ管ムコト能ハサル者	六五〇	終身業務ヲ管ムコト能ハサル者	一、二〇〇	終身業務ヲ管ムコト能ハサル者	一、二〇〇
其ノ他ノ者	五二〇	其ノ他ノ者	一、一〇〇	其ノ他ノ者	一、一〇〇
終身月俸百圓以上	五六〇	終身月俸百圓以上	一、五〇〇	終身月俸百圓以上	一、五〇〇
終身月俸七十五圓以上	四五〇	終身月俸七十五圓以上	一、二〇〇	終身月俸七十五圓以上	一、二〇〇
終身月俸五十圓以上	三九〇	終身月俸五十圓以上	一、〇〇〇	終身月俸五十圓以上	一、〇〇〇
終身月俸四十五圓以上	三五〇	終身月俸四十五圓以上	九〇〇	終身月俸四十五圓以上	九〇〇
終身月俸三十五圓以上	二八〇	終身月俸三十五圓以上	八〇〇	終身月俸三十五圓以上	八〇〇
終身月俸二十圓以上	二二〇	終身月俸二十圓以上	七〇〇	終身月俸二十圓以上	七〇〇
終身月俸十二圓以上	一五〇	終身月俸十二圓以上	六〇〇	終身月俸十二圓以上	六〇〇
終身月俸十二圓未満	一五〇	終身月俸十二圓未満	六〇〇	終身月俸十二圓未満	六〇〇

陸軍給與令

明治三十二年六月
勅令第二百二十三号

第九章 雜則
第五十八條 營内居住ノ下士以下死亡スルトキハ
埋葬料ヲ給ス其ノ定額ハ第二十八表ニ依ル限備
役後備役下士兵卒補充兵召集中死亡スルトキ亦
同シ

陸軍給與令
明治三十二年六月
勅令第二百二十三号

明治三十七年七月

陸軍戦時給與規則

明治三十七年七月
勅令第百三十三號

第十二條 軍人軍屬死亡シタルトキハ第二表ノ埋

葬料ヲ給ス

戦役ニ従事スル者ニシテ前項ノ支給ヲ受ケサル

者官ニ於テ埋葬ヲ要スルトキハ官費ヲ以テ之ヲ

埋葬ス

海軍給與令 明治三十七年一月
勅令第百六號

第九章 埋葬

第九十四條 生徒、學生若ハ下士卒死亡シ又ハ艦船乗組ノ艦乗備人備入地外ニ於テ死亡シタルトキハ生徒、學生及下士ニ在リテハ二十三圓、卒及艦乗備人ニ在リテハ十八圓ヲ最上服トシ官費ヲ以テ之ヲ埋葬ス但シ遺族又ハ故舊ニシテ死體ノ引渡ヲ請フ者アルトキハ本條ノ金額以內ヲ給ス

第九十六條

下士卒入院中豫備役後備役、免官若ハ免役ト爲リ又ハ召集ヲ解カレ退院前死亡シ死體引取人ナキトキハ第九十四條ノ規定ヲ準用ス

朝鮮、臺灣

前項ノ死亡者ニシテ外國若ハ臺灣ニ於テ官費ヲ以テ其ノ死體ヲ埋葬スルトキ又ハ傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ前項ノ制限ニ拘ラス特ニ官費支拂ト爲スコトヲ得

朝鮮、臺灣

官外國若ハ臺灣航海中死亡シ其ノ地ニ於テ死體ヲ埋葬スルハ官費支拂ト爲スコトヲ得朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ在勤スル海軍以上陸軍生及軍醫死シ其ノ地ニ於テ埋葬スルトキ亦同シ

海軍給與令

海軍戦時給與規則

明治二十七年八月
勅令第百三十六號

第十五條 軍人軍屬其ノ他戦役ニ從事スル者死亡シ戦地ニ於テ埋葬スルトキハ總テ實費支辨トシ戦地以外ニ於テ埋葬スルトキハ左ノ區別ニ從ヒ遺族又ハ故舊ニシテ死體ノ引渡ヲ受クル者ニ埋葬料ヲ給ス但シ下士卒ヲ戦地外ニ於テ埋葬スルトキハ海軍給與令第九十四條ノ規定ニ依ル

高將官及相當官	五十五圓
高等文官二等以上	四十五圓
高等文官五等以上	三十五圓
高等文官六等以下	二十五圓
准士官ノ身分取扱ヲ受クル者	二十圓
准士官ノ身分取扱ヲ受クル者	二十圓
下士ノ身分取扱ヲ受クル者	十八圓

扶助科等給與順位調

官吏遺族扶助法

官吏遺族扶助法施行細則
第一章 總則
第一條 本法は、官吏の遺族に對し、その生活の維持に必要とする給與を、その遺族の生活の状況に依り、順位を定めて給與するものとする。

官吏死後給與

一 寡婦

二 孤兒

家系継嗣者

順次育少子

三 父母

四 兄弟姉妹

五 祖父母

官吏遺族扶助法施行細則
第二章 給與の順位
第一條 官吏の遺族に對する給與の順位は、左の如き順序とする。

官吏恩陞，規定如下：

子
父田
程六四
定亦如之
但し本人死後出生した者出、子ハ死す、
當其家ニ在ル者ヲ看依ス

太ノ内曰順席内ニ居テハ男ハ女ニ先ケ長ハ短ニ先シ
但し富貴北條人ハ曰順席内ニ居テハ男ハ女ニ先ケ

[illegible]

海軍軍如職工
 条例(陸海軍)

遺族：死者ト曰テ新内ニハ家婦
 族父母親父母兄弟姉妹トス

名能事務工
 労働者上死傷
 手当

死者：其生計ヲ當リ来リ先親ト戸
 新内ニ在ル也

官役職工
 扶叩令

- 一 配偶者
 - 二 子
 - 三 父母
 - 四 孫
 - 五 祖父母
 - 六 兄弟
 - 七 姉妹
- 曰能位内ニ在リハ男ハ女ハ長ハ短ハ先
 任シ家務ヲ執ル人ニ最モ先トス

法蘭西一四号

大正二年四月十日

内閣省長

村田首相

照会

如或之通達後改定其照會者之件
より為小一考と煩ひし故

内閣

山之内内閣書記官長殿

下塚通信次官

拜破陳名官吏死亡

シムルトキ俸給令依

死亡賜金シ給ムハキ

遺族ノ件ニ付内閣

書記官ト當省官房

秘書長ト照覆、

次第有之ヲ示シ左

死亡賜金ハ其ノ性

質ニ於テ遺族扶助

金ヨリモ死亡名吊祭

料ニ近キモノ、如ク被

考且明治二十六年

三月閣議決定、
趣き之に當りて於
從來遺族に丁年以
上ノ子ニ在トキ之に死亡
賜金ヲ給與し、年々
其ノ寸分厚大其ノ給
与ノ範圍ヲ減縮ス
コトニシテ豫當ノ嫌モ有之
又傳給令、所謂官吏
遺族扶助法、定ムル所
遺族ニ實際扶助料
又一時扶助金多ク又
之ト存トシ拘ルニ因テ

又一時扶助余多文

くんと君と拘る因法

於テ寡婦、孤兒、壽

其種類ヲ指之

云、意義我ニ解釋

ハ傳給合ニ照前

掲取板ヲ為スニ必

スシモ右左支ニ手標被

考候、就テ今一應

以譯議上可成迄

前、通迄無シ云々

支ニキコトニ對テ亦在可

然ルヲ知何分ノ貴

夫十キコトノ致方有可
然以之知何分ノ貴
報煩之此以得
貴之志以順家兒

大正二年四月二日

大塚通信次官

山之内内閣書記官長殿

内閣書記官長 同第廿九番

大正二年三月十三日

内閣書記官長 (印)

内閣書記官 (印)

下藤

印刷局長、回答案

官吏死亡シタルトキ俸給令ニ依リ死亡賜金ヲ給スルキ
遺族ニ關シ照會ノ趣ヲ承官吏遺族扶助
法第廿條ノ一時扶助金ヲ受クルモノヲ得ル遺族ハ
同法ニ依リ扶助料ヲ受クルモノヲ得ル遺族ト同一ニ
有之候ニ付本件ノ死亡賜金ハ給与ニ得サルモノナリ候

此段及四谷候也

乙二年三月

内閣書記官

各有執書官等、通牒案

官吏死亡ニシテ、俸給令ニ依リ、死亡賜金ヲ給スルノ事、
族ノ関スル印刷局長、照會ニ付、別記、如ク回答被
候、付、為念、此段及通牒候也

二年三月

内閣書記官

法制局第一三号 三月

大正三年三月五日

印刷局長

御聖

内閣書記官長

書記官

付箋

付箋

(三)

付箋

官吏死亡ニシテ、俸給令ニ依リ、死亡賜金ヲ其
遺族ニ給與スルノ際、其家ニ年ニ丁年
以上ノ子有之場合ニ於テ、官吏遺族
扶助法第十七条ニヨリ、死亡賜金ヲ
給與シテ可也、我差、追後儀有之候ニ

付箋

(一)

本件議論トシテハ法制局意見通リト
 存候得共實際ニハ各省ニ於テ給與
 致居リ現、印刷局ニ於テモ前年給與
 シタル先例モ前之依間御會上御
 請出願度(若シ給與セザンコトニ決意
 ス者省、通知致度ナリ)面
 内閣書記官長

付箋

(二)

官吏遺族扶助法第七條、一時扶助金ヲ
 支クルコトヲ得ル遺族ハ扶助料ヲ支クルコトヲ
 得ル遺族ト同一ニ有主候ニ付本件ノ死ニ賜
 金ハ給與シ得カルモノト認メラレ候

大正二年三月七日

法制局書記官



内閣書記官長

付箋

(三)

本件至ル品口意見見及承知致

也

三ノ旨

田中書記官

法制局書記官

三ノ旨

付至急相伺儀也

内閣書記官長 通第二一號

大正二年三月廿日

内閣書記官長

内閣書記官

大正二年三月二十日

内閣書記官

通候大臣官房秘書課長

回答

官吏死亡ニタリトキ俸給令ニ依リ死亡賜金ヲ給スヘ
キ遺族ニ関スル件ニ付照會ノ趣ヲ承知ハ侍意
見ノ通

照會

大正二年三月十九日

逋信大臣官房祕書課長



内閣書記官殿

官吏死亡シタルトキ俸給

令ニ依リ死亡賜金ヲ給

スヘキ遺族ニ関スル件

(三月十四日付通牒)

官吏死亡シタルトキ俸給令ニ依リ死

亡賜金ヲ給スヘキ者ハ官吏遺族扶

助法第十七條ノ遺族即同一戸籍

内ニ在ル親族ヲ指シシル義ト閣議決定、旨明治二十六年三月十六日
内閣送第八號ヲ以テ通牒、次第
有之該閣議決定ニ所謂同一戸籍
内ニ在ル親族ハ官吏遺族扶助法、
依リ扶助料ヲ受クヘキ者ヨリモ其ノ
範圍廣汎ニシテ寡婦ナクシテ子ニ死
亡賜金ヲ給スルトキハ其ノ子ノ丁年以
上ナルト丁年未滿ナルトヲ問フコトナク
又扶助料ヲ受クヘキ遺族ナキトキハ同
一戸籍内ノ親族何人カニ死亡賜金
ヲ給スヘキモノト解釋シ當省ニ於テ
ハ其ノ趣旨ニ依リ死亡賜金ヲ給シタ

ル實例モ有之候處今回、通牒ニ依
ルハ前記閣議決定ニ於テ同一戸籍
内ニ在ル親族ト云フ者モ亦畢竟
官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料
ヲ受クヘキ者ト全然其ノ範圍、同
シトスルモノト解釋スヘキ義ニ有之
候哉為念一應貴見承知致度
候條至急何分、義回報相成
度候